

# 原始～飛鳥時代

## 文化史中心

1 次のA・Bの文章を読み、あとの各問いに答えよ。

A 第二次世界大戦後、関東ローム層から打製石器が発見・確認されて以後、各地で更新世の地層から打製石器が相次いで発見された。日本でも旧石器文化が存在していたことが明らかになったのである。<sup>①</sup>完新世になると、日本列島は大陸から切り離されて、自然環境も大きく変化し、新石器文化である縄文文化が成立した。この文化は1万年ほど続いたが、その間に徐々に集落規模が拡大し、青森県などでは大集落も成立した。<sup>②</sup>

紀元前4世紀頃には弥生文化が成立した。集落の規模は縄文文化の時代よりも拡大し、奈良県の唐古・鍵遺跡や福岡県の板付遺跡の集落は、防御のために周囲が深い濠で囲まれている。また、佐賀県神埼郡の巨大な集落遺跡では大きな墳丘墓も見られる。<sup>④</sup>

3世紀後半からは、首長たちの大規模な古墳が西日本を中心に出現する。この時期の古墳は、その形や埋葬施設、副葬品などが画一的で、首長たちの間に共通の墓制が成立したことを示している。さらに、古墳の出現に先立って、広域の首長たちの政治連合が実現していたことも想定されている。そして、これら出現期の古墳の中で、最大規模のものが奈良県に見られる。<sup>⑦</sup>

問1 下線部①に関する記述に該当するものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 西日本ではシイなどの照葉樹林が広がっていた。
- イ. 人々は石槍でナウマンゾウやオオツノジカなどを捕らえた。
- ウ. 土偶や石棒などの呪術的遺物が出土する。
- エ. 水辺の台地上などに竪穴住居跡が広がっている。

問2 下線部②に関する記述に該当するものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 赤焼きの薄手の丈夫な土器類は、この文化の時代の基本的な生活用具である。
- イ. 群馬県の岩宿遺跡は、この文化の時代の代表的な集落遺跡である。
- ウ. 磨製の石包丁や高床倉庫は、この文化に見られる朝鮮半島系の要素である。
- エ. 磨製石斧や弓矢は、この文化の時代の代表的な生活用具である。

問3 下線部③に該当する遺跡は何か。漢字4字で記せ。

問4 下線部④に該当するものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 高地性集落
- イ. 環状集落
- ウ. 畑作集落
- エ. 環濠集落

問5 下線部⑤に該当する遺跡は何か。記せ。

問6 下線部⑥に関する記述に該当しないものを、次の中から一つ選び、符号で答えよ。

- ア. 墳丘の上には人物埴輪や動物埴輪などが並べられている。
- イ. 副葬品には銅鏡などの呪術的な色彩の強いものが多く見られる。
- ウ. 埋葬施設は木棺などを竪穴式石室に納めたものが多い。
- エ. 墳丘部の形は前方後円形か前方後方形が多い。

問7 下線部⑦に該当するものを、次の中から選び、符号で答えよ。

ア. 高松塚古墳    イ. 箸墓古墳    ウ. 造山古墳    エ. 太田天神山古墳

B ヤマト政権では、仏教公伝ののち、崇仏・排仏をめぐる有力豪族の対立が半世紀ほど続いたが、6世紀末に推古天皇が即位すると、飛鳥の朝廷は仏教保護政策を採用した。その結果、飛鳥の地を中心に飛鳥文化が興隆した。豪族たちは氏寺や仏像をつくり、古墳に代わる権威を氏寺の建立や仏像の製作に求めるようになった。7世紀後半に即位した天武・持統天皇は、神社の祭りを重んじ、同時に仏教を厚く保護した。最初の本格的都城も造営され、官立の大寺院が建立されて、その維持・管理の仕組みも整えられた。そうした中で、初唐文化の影響を受けて、仏教文化を基調にした、若々しい白鳳文化が興隆した。

問8 下線部⑧に関する記述として適切なものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 仏教保護政策は、大臣の蘇我馬子が政争に敗れてから、採用された。
- イ. 仏教保護政策の最初は、冠位十二階の制である。
- ウ. 推古天皇が飛鳥寺を創建し、有力豪族がそれにならって氏寺を建立した。
- エ. 聖徳太子（厩戸王）が摂政となり、仏教保護政策の推進者となった。

問9 下線部⑨に該当するものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 石上神宮七支刀    イ. 法隆寺夢違観音像    ウ. 中宮寺半跏思惟像
- エ. 法隆寺金堂壁画

問10 下線部⑩の都城は何か。漢字3字で記せ。

問11 下線部⑪についての記述として正しいものを、次の中から選び、符号で答えよ。

- ア. 興福寺仏頭や薬師寺東塔などがつくられた。
- イ. 京都の太秦に広隆寺が建立された。
- ウ. 『天寿国繡帳』が橘大郎女らによって製作された。
- エ. 鞍作鳥が飛鳥寺釈迦如来像を製作した。